谷川岳登山

記　T村M

2022/12/10(土)
メンバー：Ｉ崎、Ｔ村Ｍ、Ｔ村Ｅ

2022/12/10(土)　晴れ
　今年の冬シーズンの足慣らしを兼ねて、まずは雪山の歩きからということで、谷川岳に行ってきた。今年はどこもかしこも雪不足だが、谷川はスキー場こそまだオープンできていないが、スキー場からの登山道は十分な雪の量で、雪上歩行を十分に楽しむことができた。
以下、報告です。

前夜は、Ｉ崎さん宅にて１時間ほど前夜祭をして宿泊させていただいた。
朝、6:40 にＩ崎さん宅を出発。途中昭和 IC 前の駐車場にＴ村車をデポしてＩ崎車で谷川岳へ向かう。ロープウェイの始発まで時間があるので、下道を使う。
谷川岳ロープウェイの駐車場はスキー場 OPEN 前のため 500 円で止められた。
ロープウェイに乗って天神平へ着くと、すでに大勢の登山者が谷川岳に向かって入山している。私たちもアイゼンを装着し、9:12 に出発。

天神平駅から天神尾根へトラバース道を通る。雪は膝上まであるが、しっかり踏まれていて歩きやすい。30 分程で天神尾根に合流。ここから谷川岳に向けて登りとなる。天神尾根に出てしばらく進むと先頭を行く I 崎さんが、「今日は富士山が見える」と教えてくれた。振り返ると小さいが台形の富士山がはっきりと見えていた。気温の低い冬だから見えるのだろう。今日はピーカンでもあり、天神尾根からのながめが素晴らしい。
10:05 熊穴沢避難小屋に到着。小屋の前は多くの登山者でごった返している。

水分補給で少し休憩後出発。ピーカンの天神尾根は大勢の登山者で数珠繋ぎ。天狗のたまり場は登山者のたまり場になっていた。避難小屋から 1 時間半で肩の小屋に到着。肩の小屋の周りも登山者があふれていた。休まずにそのままトマの耳へ約 10 分の登り。肩の小屋からの登りだしは膝上ぐらいの積雪だが、大勢の登山者に踏まれしっかりとしたトレースがついている。トマの耳まで快適な登りであっという間に到着。トマの耳も大勢の登山者でにぎわっていた。

トマの耳からの眺めが素晴らしかった。360度周りの山がはっきりと見渡せる。白い山に青い空のコントラストが素晴らしい。久しぶりの冬山の景色だ。

トマの耳からオキノ耳を見ると、稜線を大勢の人が行き交っている。天気が良いせいだろう、こんなに大勢の人が列になって行き交っているのを初めて見た。
トマの耳で終わろうかと話していたが、この天気で帰るのももったいないので、我々も行こうということになり、オキの耳まで行く。オキの耳まではほぼ平坦な稜線を進む。こちらもまたトレースがしっかりついているので、あっという間に到着。

オキの耳からは日本海方面の新潟の山々が真っ白で素晴らしい。トマの耳には登山者が密集しているのがよくわかる。天気は良いが、止まっていると冷たい風が体を冷やしてしまう。早々に下山を開始。トマの耳を通過し、肩の小屋まで一気に下る。

肩の小屋でスキーを担いで上がってきた若者？が一名、まだ早いだろうなと思いつつ、声をかけると、「予想はしていたが、雪が少ないため、どれぐらい滑れるかわからないが頑張って滑る」と言っていた。頑張ってと声をかけ我々は天神尾根を下山。うまく滑れて楽しめただろうか？この日の谷川岳は稜線上には登山（歩行）には十分な積雪だが、オキノ耳からの斜面はところどころ藪や岩がのぞいていて、滑っても楽しそうではなかった。後、５０cm ぐらいは積もらないと滑れないなと思った。

肩の小屋からの下りは早い、アッという間に熊穴沢避難小屋を通過し天神平ロープウェイの乗り場に到着。OPEN 前のスキー場のゲレンデで雪訓をやっているパーティーが結構いた。圧雪していないゲレンデは傾斜もあり丁度よい訓練場になっていた。

ロープウェイで下山し、I 崎車で水上駅近くの「ふれあい交流館」で温泉に浸かり、下道で昭和 IC まで戻る。途中、群馬のケンタッキーと呼ばれている「高橋の若鳥」に寄り、蒸し焼き（骨付き）と照り焼き（骨なし）をお土産に買った。（帰宅後に食べた。うまかった。）

昭和 IC 前の駐車場で I 崎さんと別れ、帰路に就く。これから、冬山シーズンが始まる。（山スキーがほとんどだが、）良い足慣らしになりました。I 崎さん今回は私たち雪山足慣らしにお付き合いいただきありがとうございました。

ｺｰｽﾀｲﾑ：9:12 谷川岳天神平～9:32 天神尾根分岐～10:04 熊穴沢避難小屋～10:46 天狗のたまり場～11:00 天神ザンゲ岩～11:40 谷川岳肩の小屋～11:50 トマの耳～12:10 オキの耳～12:39 トマの耳～12:43 谷川岳肩の小屋～13:38 熊穴沢避難小屋～13:56 天神尾根分岐～14:12 谷川岳天神平